

千葉県指導農業士会千葉地区会と連携した担い手育成

1 活動の背景とねらい

農業の高齢化が進展する中、地域の農業振興を図る上で担い手の確保は喫緊の課題です。将来の農業を支える若い人材を確保するため、優良な農業経営者の熱意ある取組みを学び、職業としての農業の魅力を理解し、将来の就農を促進する必要があります。

そこで、千葉県指導農業士会千葉地区会では新規就農者や農業経営体育成セミナー受講者や、農業高校生等を対象に地域農業を支える担い手育成を行ってきました。

2 普及活動の経過・結果

(1) 担い手育成に向けた合意形成

千葉県指導農業士会千葉地区会では、現在27人の指導農業士が、農業・農村の課題解決と次代を担う若手農業者の育成確保に向けて活動をしています。理事会や通常総会を通して、「担い手育成のための指導・援助」、「研修生の受け入れ」等の合意形成を進め、若手農業者と指導農業士が交流する機会を増やしてきました。その結果、個々の経営発展だけでなく、農業の担い手を確保し、定着できるよう支援していく取組への意欲が高まり、担い手育成に携わる指導農業士の増加に繋がりました。

(2) 就農前から就農開始まで対象に合わせた担い手育成の取組

ア 市原高等学校園芸科の視察受入れ



写真1 水耕レタスの収穫体験をする
市原高等学校園芸科生徒

千葉県立市原高等学校園芸科2年生の生徒を対象に、職業として農業を選択することを目的として千葉地域の農業を知る視察研修会を開催しました。視察研修会の開催にあたり学校側から「農場で実習できない作目や実際の農業経営を見学したい」、「農業関係企業への就職も視野に入れるためにOBが就職した農業法人を見学したい」などの要望がありました。これらの要望に添うよう理事会で協議し、視察先を選定しました。当日は経営主から、農業経営の苦労や喜び、雇用者の

就業条件などについて説明を受け、生徒から「農業は、食糧を提供する重要な役割だと改めて感じた」、「農業は工夫する大変さがあるが、成功する喜びや夢がある」等の貴重な意見が聞かれ、将来の職業選択に向け参考になった様子が伺えました。

イ 千葉県立農業大学校生の派遣実習の受入れ

千葉県立農業大学校生の派遣実習の受入れは、露地・施設野菜、果樹、花き、畜産等、幅広い経営類型の指導農業士が協力し、指導に当たっています。令和6年度は、延べ4人の指導農業士が学生を受入れ農業技術や農業経営、農業に対する価値観などを伝えました。

大学校生から、「農業は同じことの繰り返しでなく、新しいことにも挑戦し、経営を伸ばしていくことの重要性を学んだ。自身もいろいろなことに挑戦していきたい」と、新たな学びや気づきが得られた感想が多く聞かれ、進路の決定に役立つ研修を実施することができました。

ウ 農業経営体育成セミナーの視察受入れ

管内では毎年20名程の新規就農者が、農業の基本的な知識・技術の習得と仲間づくりを目的に農業経営体育成セミナーを受講しています。

千葉地区会では、農業経営体育成セミナーの視察受入れやプロジェクト発表の助言を通して、農業経営に必要な技術や課題解決等に関する指導を行いました。農業経営に携わっている中での悩みや疑問点に対し、「新たな視点で提案することは、農業界の発展にも大切だ」と参加者の考えを後押しし、やる気を引き出す助言が聞かれました。



写真2 指導農業士の説明を聞く
農業経営体育成セミナー
受講者

3 今後の課題

千葉県指導農業士会千葉地区会は、地域農業振興や担い手育成に大きな力を発揮しており、今後も継続的に働きかけ役割が発揮できるよう関係機関と連携しながら支援していきます。

- (1) 指導農業士としての役割を発揮する場面の創出
- (2) 新たな指導農業士の育成
- (3) 資質向上の支援

4 担当者 千葉・習志野グループ 原 浩文

5 協力機関

千葉県立市原高等学校

千葉市、習志野市、市原市、八千代市